

広島大学大学院
放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム

平成 28 年度第 2 回フェニックスリーダーシップセミナーを開催しました

平成 29 年 1 月 18 日に ICRP Main Commission 副委員長で本学客員教授である Jacques Lochard 氏を招き、「My experience with the post-accident situations of Chernobyl and Fukushima」と題して本年度第 2 回リーダーシップセミナーを開催し、当プログラム所属学生 23 名、リーディングプログラム「たおやかプログラム」から 1 名、教職員 5 名の計 29 名が参加しました。

講師は 1989 年以降 CEPN センター長（当時）として、チェルノブイリ原子力発電所事故後に EC (European Commission) や IAEA が主導した国際プロジェクトに参加し、被災地の状況と住民への身体的精神的社会的な影響の調査・コミュニティへの支援を行うとともに、福島第一原子力発電所事故後の被災地の生活を取り戻すため、ICRP ダイアログ等で住民を支援してきました。

参加者は、放射線災害からの復興に欠かせない国際的な協力体制や学際的な専門家のネットワークに関して経験豊富な講師から多くを学ぶとともに、活発なディスカッションを行いました。

